

JOT



社会とともに発展を遂げる企業であるために

2019

CSR 報告書

Corporate Social Responsibility

Shift for the Next

安全の徹底と質の高いサービスで
未来への責任を果たします

CONTENTS

会社概要 …………… 01	Social	Governance
トップメッセージ …………… 03	お客様とのかかわり	コーポレートガバナンス
日本石油輸送のCSR推進体制 …… 05	安全 …………… 11	コンプライアンス …………… 17
Environment	品質管理 …………… 13	
環境とのかかわり …………… 09	従業員とのかかわり …… 14	
	地域社会とのかかわり …… 15	

編集方針

「CSR報告書2019」は、JOTグループを支えてくださっている全てのステークホルダーの皆様に、JOTグループが取り組んでいる様々なCSR活動を広く発信することを目的に発行しています。JOTグループのCSR推進テーマの項目に基づき、各活動の考え方、実績、取組み内容について**E**(環境)**S**(社会)**G**(ガバナンス)の観点より報告しています。

対象期間

原則として、2018年4月1日から2019年3月31日までを対象期間としていますが、一部、2019年4月以降の内容も含んでいます。

対象範囲

日本石油輸送株式会社
およびグループ会社5社

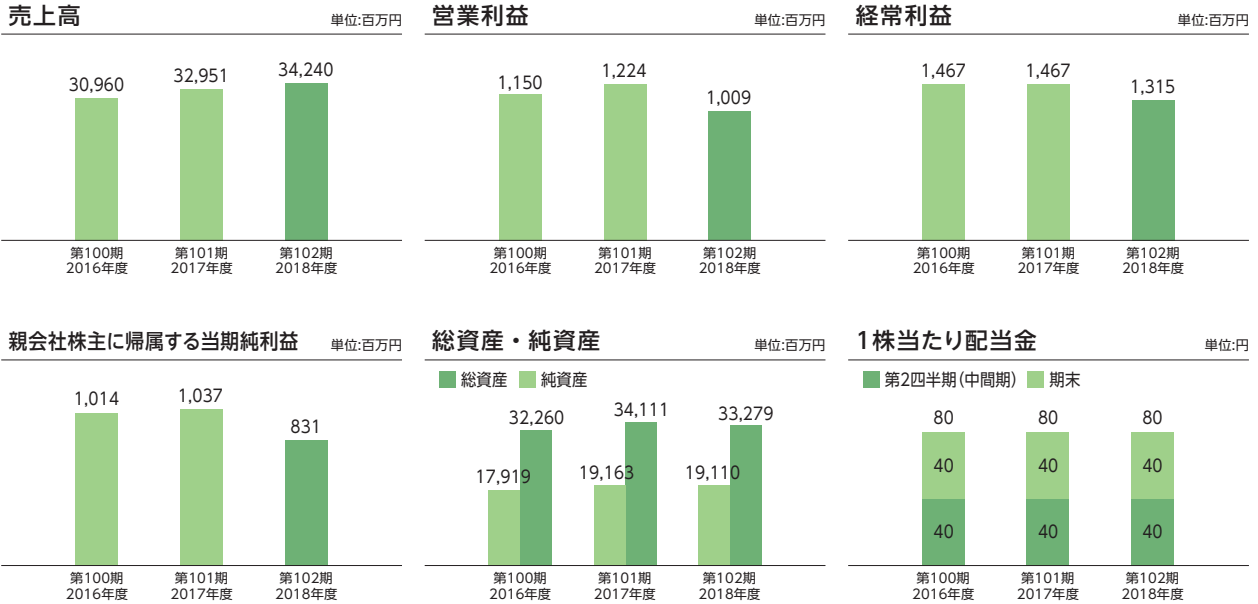
発行時期

2019年9月

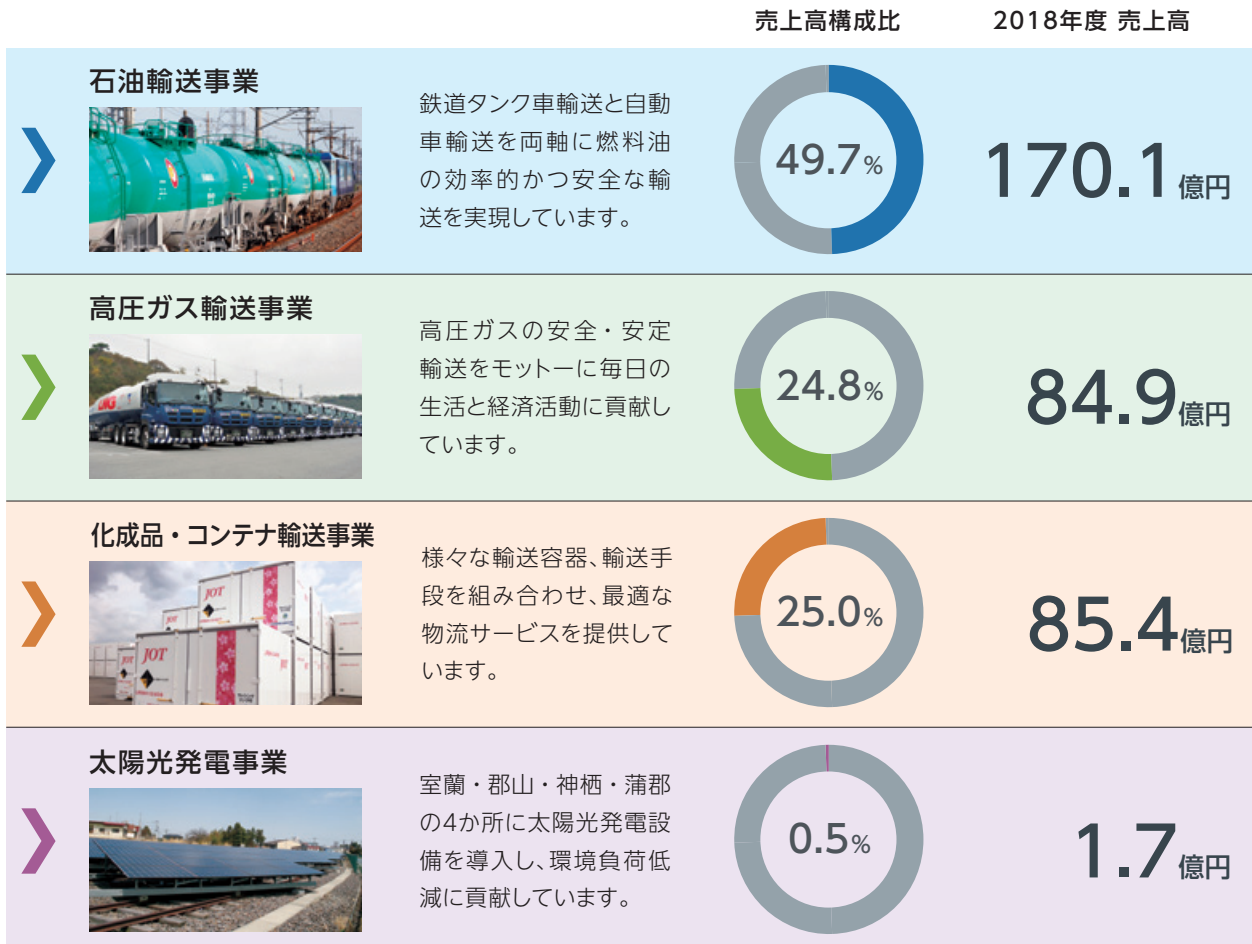
会社概要

社名	日本石油輸送株式会社 Japan Oil Transportation Co.,Ltd.
所在地	東京都品川区大崎一丁目11番1号
設立	1946年3月27日
資本金	16億61百万円
従業員数	連結1,494名、単体159名(2019年3月31日現在)
事業内容	1. 石油製品(ガソリン・灯油等)の鉄道タンク車輸送・貨物自動車輸送 2. 高圧ガス(LNG等)の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送および複合一貫輸送 3. 石油化学製品等の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送 ならびに国内および国際複合一貫輸送、各種コンテナのリース 4. 鉄道用冷蔵・冷凍コンテナ等のレンタル・リース 5. 太陽光発電事業
グループ会社	株式会社エネックス 近畿石油輸送株式会社 株式会社ニチユ 株式会社ニュージェイズ 株式会社JKトランス

連結業績



セグメント別事業紹介



時代の変化に合わせた多様な輸送手段を活用し、

Top Message

会社概要

トップメッセージ

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
従業員とのかかわり

Social
地域社会とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス



日本石油輸送株式会社
代表取締役社長

原 昌一郎

持続可能な社会の発展を支えていきます。

▶ 中期経営計画とCSR活動

現在、JOTグループは「Shift for the Next 安全の徹底と質の高いサービスで未来への責任を果たします」というキャッチフレーズのもとに、中期経営計画(2017年度～2019年度)の達成に向け、グループ一丸となって取り組んでおります。

この中期経営計画においては、数値目標(2019年度：売上高330億円以上、営業利益12億円以上、経常利益15億円以上)の達成をめざしていくにあたり、株主をはじめお客様、従業員、地域社会等の全てのステークホルダー(利害関係者)の皆様に対して社会的責任を全うすることを基本方針に示しており、事業活動と一体となったCSR活動に取り組んでいます。

▶ 「安定輸送・安全輸送」への取り組み

JOTグループでは鉄道、自動車および船舶といった多様な輸送手段を活用する「複合一貫輸送」を行っており、状況に応じて臨機応変な対応をすることができます。昨年の西日本豪雨災害では鉄道網が寸断された地域もありましたが、鉄道輸送から自動車輸送への切り替えなどにより、影響を最小限に抑えることができました。

また、自動車輸送を取り巻く環境は、人手不足や働き方改革の推進等の問題が山積し、過去にない厳しい状況が続いていますが、雇用環境の改善による乗務員の確保に注力するとともに、安全教育についてもより一層の充実を図ることで、今後お客様に安心してご利用いただける質の高いサービスの提供に努めてまいります。

▶ 持続可能な社会の実現に向けて

深刻化する地球規模の課題解決へ向け、2015年の国連サミットにおいて、世界が2030年までに達成すべき17の目標を定めた「SDGs(持続可能な開発目標)」が採択されました。今やSDGsはグローバルな共通言語となっており、日本国内でもSDGsに取り組む企業が増加しています。また、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピック競技大会もSDGsに沿った大会運営をめざしており、国内外で様々な取組みが進められています。

このような国際的な潮流の中、JOTグループにおいても、事業活動を通じ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

▶ CSR全体のレベルアップをめざします

グループ一体となってCSR活動を推進するため、グループCSR委員会を設置しています。「コンプライアンス」「安全」「環境保全」「品質管理」「人間尊重」「社会貢献」の6つのテーマを設定し、CSR全体のレベルアップをめざしてまいります。

全てのステークホルダーの皆様と、より強固な信頼関係を築くため、これからもJOTグループの従業員が一丸となり、CSR、ESG(環境・社会・ガバナンス)を意識した企業活動をさらに進めてまいります。

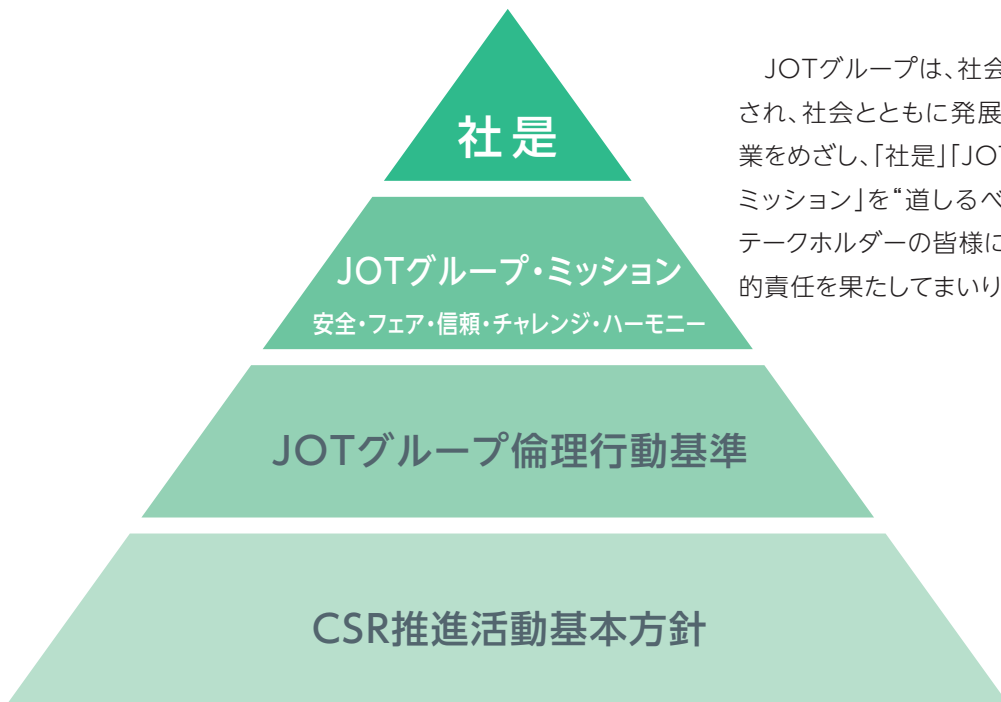
皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【企業理念に基づいた社会への貢献】

社 是

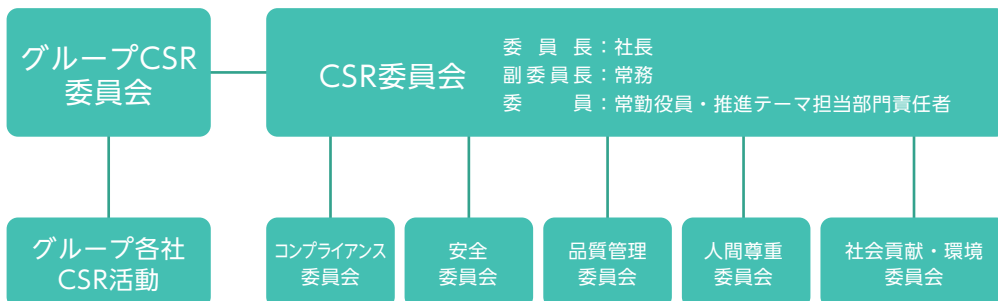
奉仕こそ我が務め
Service is my business

「企業は単に利潤を追求するだけでなく、業務を通して社会に奉仕するという高い理想を掲げるべきであり、そうした経営理念に支えられた企業のみが社会での存立の基盤を与えられ、発展を許される」



JOTグループは、社会から必要とされ、社会とともに発展を遂げる企業をめざし、「社是」「JOTグループ・ミッション」を“道しるべ”として、ステークホルダーの皆様に対して社会的責任を果たしてまいります。

【CSR推進体制】



日本石油輸送はステークホルダーの皆様からの信頼をさらに強固なものとするため、CSR委員会を中心に、6つのCSR推進活動テーマに基づいた委員会による活動を展開しています。

また、グループ一体となってCSR活動を推進するため、グループCSR委員会を設置しています。

会社概要

トップメッセージ

日本石油輸送のCSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
お客様とのかかわり
品質管理

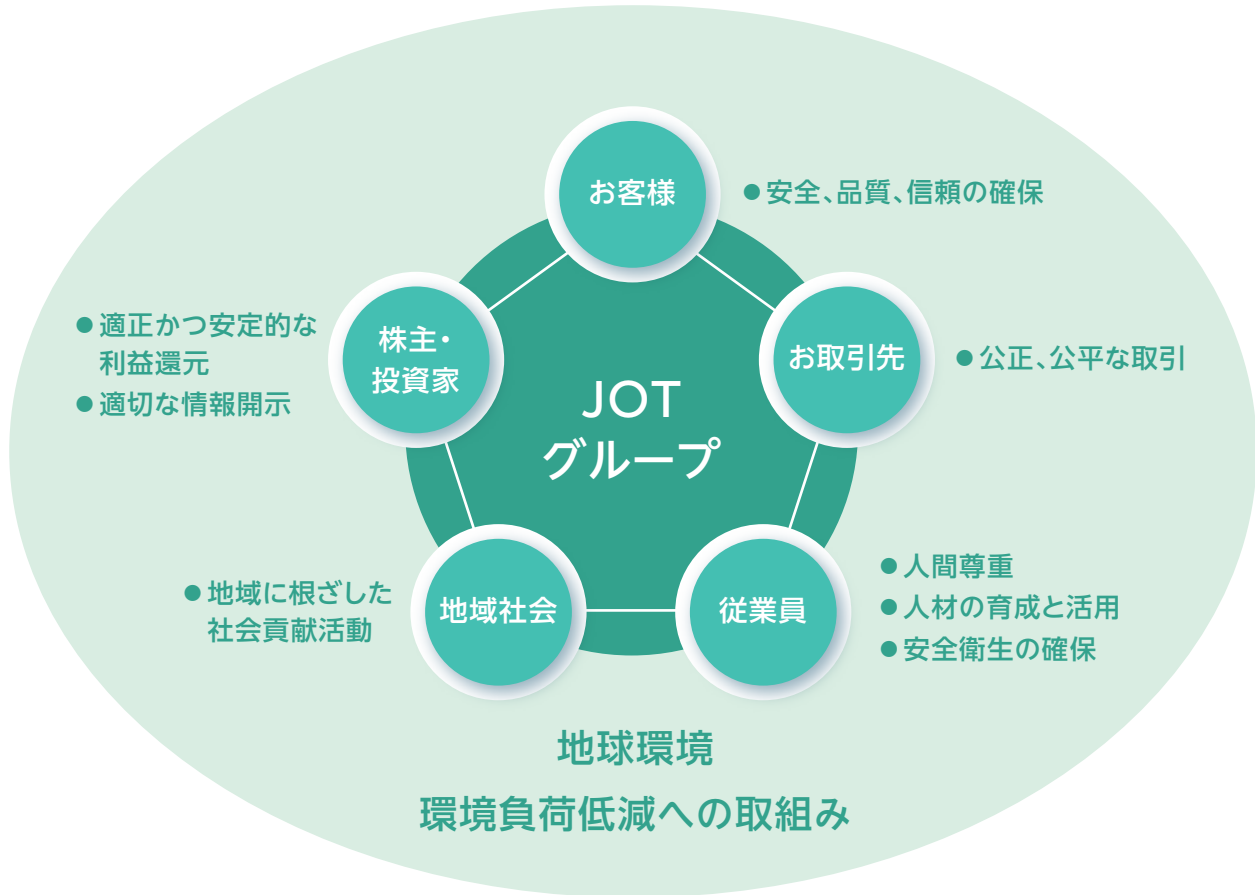
Social
従業員とのかかわり

Social
地域社会とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

【JOTグループを取り巻くステークホルダー】

企業の社会的責任を果たすことにより、株主、お客様、従業員をはじめとする全てのステークホルダーの皆様からの信頼を確実なものとし、社会とともに持続的に発展していくことをめざします。



【事業活動を通じたSDGsへの貢献】

JOTグループでは、持続可能な社会の実現に向けて、事業活動を通じたCSR活動を推進しています。

考え方を同じくするSDGsの達成に向け、重点的に取り組む目標を決定し、地球規模の課題解決に貢献してまいります。

*SDGsとは
2015年9月の国連サミットにおいて、全会一致で、Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」が採択されました。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年までに地球規模で解決すべき17の目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



日本石油輸送のCSR活動実績

会社概要

トップメッセージ

日本石油輸送のCSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
従業員とのかかわり

Social
地域社会とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

日本石油輸送のCSR活動推進テーマ		関連するSDGs
S	E 環境保全 <ul style="list-style-type: none"> ●環境関連法規の遵守 ●資源、エネルギーの効率的利用 ●循環型経済社会の実現 ●環境マネジメントシステムの継続的改善 ●環境方針の周知と公表 	
	安全 <ul style="list-style-type: none"> ●輸送品質を高めお客様のブランド向上、信頼に応える ●「運輸安全マネジメント」体制の充実 ●法令と基本作業の遵守 ●迅速な連絡の徹底 	
	品質管理 <ul style="list-style-type: none"> ●品質管理に対する意識の向上 ●輸送品質の維持、向上 	
	人間尊重 <ul style="list-style-type: none"> ●人権啓発の促進 ●こころとからだの充実と健康管理 ●ワークライフバランス実現に向けた取組み ●人事諸制度の整備 ●人材育成プログラムの充実 	
	社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者支援 ●環境保護活動 ●児童の貧困支援 ●次世代育成支援 ●地域に根ざした社会貢献 	
	コーポレートガバナンス <ul style="list-style-type: none"> ●コーポレートガバナンス体制の強化 	
G	コンプライアンス <ul style="list-style-type: none"> ●リスクマネジメントに対する取組み ●情報管理に対する取組み ●反社会的勢力に対する取組み ●内部通報(ヘルプライン)の運用 ●コンプライアンス教育、啓発活動の実施 	

日本石油輸送ではCSR活動を6つのテーマに分類し、積極的に推進しています。
各活動推進テーマをESG(環境・社会・ガバナンス)・SDGsの観点から整理し、関連付けることにより、輸送事業を通じた持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

2018年度の主な活動実績

事業を通じて環境負荷低減に貢献

→P10

2018年度にモーダルシフト他により削減したCO₂排出量

992,347t



全国安全パトロールの実施

→P11

安全な職場環境づくりを継続的に推進



各種安全研修の実施

→P11・P12

安全活動の全国展開と安全意識の共有化



品質管理委員会の実施

→P13

国内輸送ならびに国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究



品質向上への取組み

→P13

容器メンテナンスの徹底を中心とした、品質の維持・向上



人材育成プログラムの充実

→P14

- 次世代育成のための教育プログラムの実施
- グループベースの人材交流と研修の実施



ワークライフバランスの充実に向けて

→P14

有給休暇取得促進・定時退社推進日の実施等による時間外労働の削減への取組み



障がいを持つ方への支援活動

→P15

盲導犬育成への寄付、体験型活動の実施



地域に根ざした社会貢献活動

→P16

地域のイベントでのボランティア活動や各事務所近隣の清掃活動の実施



コーポレートガバナンスの強化

→P17

- コーポレートガバナンスに関する基本方針の制定
- 取締役会の実効性評価

コンプライアンスの推進

→P18

コンプライアンス意識向上への各種取組み



地球環境に配慮した経営を「モーダルシフト」で推進しています。

1 環境基本理念に基づく環境マネジメント体制

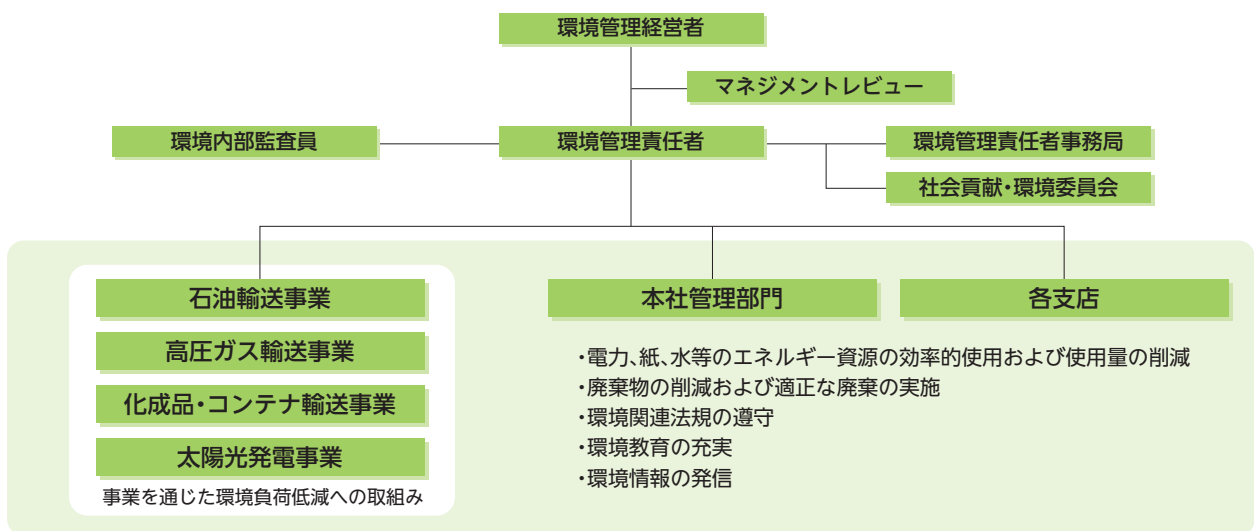
日本石油輸送は環境基本理念・環境基本方針のもと、事業を通じた環境保全への貢献に全社で取り組んでいます。

**環境
基本理念**

人類が自然環境と共存していくために地球環境の保全は世界共通のテーマであり、環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、あらゆる活動を通じて、自然との調和に努め、環境負荷の低減を図り、継続的に環境保全活動を推進する。

**環境
基本方針**

- ① 環境関連法規の遵守
- ② 自然環境保全
- ③ 資源・エネルギーの効率的利用
- ④ 循環型経済社会の実現
- ⑤ 環境マネジメントシステムの継続的改善
- ⑥ 環境方針の周知と公表



2 資源循環への取組み

廃棄物の発生量削減を推進するとともに、資源の再利用化にも積極的に取り組んでいます。不用となった貨車・タンクコンテナはリサイクル資源として有効利用し、ボックスコンテナは倉庫目的でのリユースを基本としています。

貨車・タンクコンテナの再資源化率 **100.0%**

ボックスコンテナの再利用率 **98.5%**

3 次世代クリーンエネルギー輸送

水素は、燃焼してもCO₂を排出しないクリーンエネルギーで、固定式、移動式合わせて全国で100か所以上(2019年6月現在)の水素ステーションが設置されています。JOTグループでは、固定式水素ステーションへの水素の輸送業務や、移動式水素ステーションの運営に関する業務を受託しています。水素エネルギーの利用拡大に向けて、輸送の面から貢献しています。



固定式水素ステーションへの配送

会社概要

トップメッセージ

日本石油輸送のCSR推進体制

Environment: 環境とのかかわり

Social: お客様とのかかわり
安全

Social: お客様とのかかわり
品質管理

Social: 従業員とのかかわり

Social: 地域社会とのかかわり

Governance: コーポレートガバナンス
コンプライアンス



4 環境に配慮した輸送容器の提供

輸送容器の環境配慮も積極的に進めています。部材・構造の見直し等により、従来の保冷性能を維持したまま、自重の軽量化を実現した冷蔵コンテナをこれまで約2,800個投入しており、輸送時の燃費向上に貢献しています。

これらのコンテナには、仕様ごとにピンク色や水色等の明るい色の帯を配し、軽さを連想させるシャボン玉のステッカーを貼付しており、日本全国で運用しています。



軽量型12フィート 冷蔵コンテナ

5 事業を通じて環境負荷低減に貢献

鉄道タンク車輸送、化成品輸送ならびにコンテナ輸送におけるモーダルシフトの推進、化石燃料に比べてCO₂排出量が少ないクリーンエネルギーであるLNGの輸送および全国4か所に設置した太陽光発電設備

での発電事業により、2018年度は992,347tものCO₂排出量削減に貢献しました。これは日本国民1人あたりが1年間に排出するCO₂量9.4tで換算※すると105,568人分に相当します。

※出典：国立環境研究所ホームページ

	環境目標	2018年度CO ₂ 削減量
 <p>鉄道タンク車輸送</p>	<p>鉄道タンク車輸送による環境負荷の低減 同量の石油製品をタンクローリーで輸送した場合のCO₂排出量と比較</p>	119,593t
 <p>LNG輸送</p>	<p>LNG輸送による環境負荷の低減 輸送したLNG輸送量と同量の石油製品を利用した場合のCO₂排出量と比較</p>	865,693t
 <p>化成品輸送</p>	<p>新規リース案件の鉄道・海上輸送誘致による環境負荷の低減 同区間をトラック輸送した場合のCO₂排出量と比較</p>	4,015t
 <p>コンテナ輸送</p>	<p>高い断熱性能を有するスーパーURコンテナを利用した鉄道輸送による環境負荷の低減 同区間をトラック輸送した場合のCO₂排出量と比較</p>	767t
 <p>太陽光発電</p>	<p>太陽光発電による環境負荷の低減 化石燃料等の発電によるCO₂排出量と比較</p>	2,279t

2018年度CO₂排出削減量 992,347t

日本石油輸送の安全活動基本方針

スローガン 「勝ち取ろう SAFETY 1stで 顧客の信頼」

基本方針

- ① 輸送品質を高め、お客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 法令と基本作業を守る
- ③ 迅速な連絡を徹底する

目 標

- ① 協力会社事故ゼロ
- ② 連絡車事故ゼロ
- ③ 作業事故ゼロ



1 安全強化月間

お客様へ安全・安心な輸送サービスを提供するため、「安全」に取り組む強化月間を7月と12月に設定し、安全活動の強化を図っています。

7月は「全国安全パトロール」を毎年実施し、各所における労災や事務ミス防止に努めています。

12月は連絡車事故ゼロを目標に掲げ、安全運転について改めて確認するため、連絡車に導入しているドライブレコーダーを活用した安全教育を実施し、従業員の交通安全意識の向上に努めています。

2 全国安全委員会

安全活動の共有化の徹底、また、安全確保に向けた取組みの強化を目的に、安全委員をはじめとする各支店・事業所の安全推進者による「全国安全委員会」を設置し、安全重視の企業風土を確立するため、活動しています。



3 協力会社訪問ヒアリング

協力会社の方々に対し、日本石油輸送の安全方針や安全活動をご理解・ご協力いただけるよう「協力会社訪問ヒアリング」を実施しています。

4 タンクローリー業務研修

燃料油タンクローリーの仕組み等への理解を深めるため、エネックス安全総合教育センターにおいて「タンクローリー業務研修」を行っています。燃料油の荷卸作業等を学ぶとともに、タンクローリーのカットモデルを活用したバルブ操作や単独荷卸(DCD)作業の体験実習を通して、燃料油の安全輸送の重要性を従業員へ展開しています。



2018年度全国安全パトロール実施場所

- 7月
メンテナンスセンター
- 8月
九州支店
- 2月
北海道支店



会社概要

トップメッセージ

日本石油輸送のCSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
従業員とのかかわり

Social
地域社会とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス



JOTグループの安全活動基本方針

スローガン 「安全を仕事の中心に SAFETY 1st」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 「運輸安全マネジメント」体制の充実を図る
- ③ 法令と基本作業を守る
- ④ 迅速な連絡を徹底する

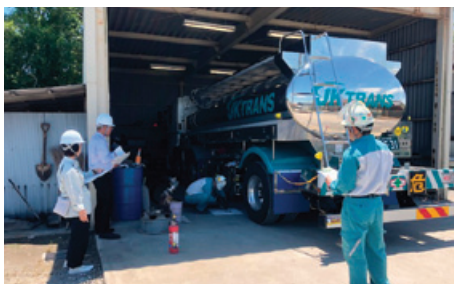
目 標

- ① 混油(液)事故ゼロ ② 追突事故ゼロ ③ アルコール検知ゼロ



1 安全外部監査の実施

グループ安全対策本部では、決められたルール・手順を徹底するとともに、事故の未然防止を図るため、グループ全車庫を対象とした「安全外部監査」を実施し、安全で確実な作業が一つひとつ忠実に実践されていることを確認しています。



2 安全推進者合同研修会

JOTグループの安全推進者を一堂に集め、安全活動の要を担う者としての役割を再認識し、グループの安全風土を確立させることを目的に、2日間にわたる研修を実施しています。



3 グループ会社 安全活動

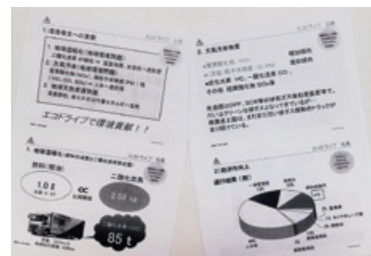
● エネックス 運行管理者教育会

各車庫の運行管理者を一堂に集め、「運輸安全マネジメント」に則り、エネックスの安全方針を着実に実践するため、「運行管理者教育会」を実施しています。運行の要となる運行管理者のレベルアップを図り、更なる安全運行を徹底しています。



● JKトランス エコドライブ講習会

乗務員を対象に、環境保全と運転時の安全性向上のため「エコドライブ講習会」を開催しています。エコドライブは大気汚染物質の排出量を減らすだけでなく、事故発生率低減にもつながることから、グループ全体でも推進している取組みの一つです。



グループ
安全標語

『忘れるな! ルールがあること守ること
習慣づけて ゼロ災害!』

公私にわたり、「諸々のルールを認識し、逸脱しない」言動を心がけたいと思います。

『2018年度グループ安全標語』 考案者
日本石油輸送 LNG部 玉木 敏之



会社概要

トップメッセージ

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
従業員とのかかわり

Social
地域社会とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス



安全・安定輸送を志向し高品質な輸送商品のご提供をめざします。

基本方針

- ① お客様に信頼される輸送容器のご提供
- ② ベストミックスな輸送システムのご提案

1 品質維持向上への取組み

容器メンテナンスの徹底や安全に配慮した輸送容器の提供により、品質の維持・向上に取り組んでいます。

石油部門では、年1回の「タンク車自主点検」により、タンク車のバルブ・内部状態・外装・パッキン等消耗品のメンテナンスを実施しています。



LNG部門では、高圧ガス保安法に基づく容器再検査をグループ企業内でも行っています。



化成品部門では、建造から一定期間以上が経過し、外観の劣化が著しいコンテナについてはリファービッシュ※を行い性能を維持しています。



※ 建造後10年経過を目的に、劣化した断熱材の取替え等の機能維持と経年による汚れが目立つ外装材の全面取替え・再塗装を行うことです。

コンテナ部門では、お客様により綺麗なコンテナを使用いただくため、建造から一定期間以上経過したコンテナを対象に再塗装を行い、「コンテナ美化」に取り組んでいます。



海外事業部門では、コンテナ上部の全面歩み板等の安全仕様の拡充や、海外提携デポにおけるメンテナンスの品質チェックを定期的に行っています。



コンテナ上部の全面歩み板



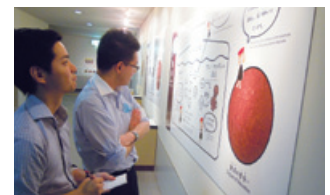
海外提携デポの監査

2 品質管理システム対象支店への内部監査の実施

2018年7月から11月に対象支店において、内部監査を実施しました。監査の結果、不適合事項および修正事項等の指摘はなく、品質管理システムの有効な運用を確認しました。

3 品質管理委員会

2018年度は、活動テーマを「国内輸送ならびに国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究」とし、他社の生産物流拠点見学や展示会等へ参加することにより、品質に対する認識を高めました。



参加者の声

1 日用品メーカー見学

全ての製品情報を細かくデータ化し、お客様の声を1年以内に製品に反映させる体制に驚いた。製品だけでなく、容器もニーズに合わせて変更するなど、短いスパンで常に発展し続ける柔軟性を是非取り入れたいと思った。(コンテナ部)

2 調味料メーカー見学

これまで訪問したどの工場よりも“人”が少なかった。人では管理しきれない細部まで、システムによる管理を徹底することで品質管理の精度を高めていた。(情報システム部)

3 乳製品メーカー見学

消費者の手に渡ってからの、食中毒等のリスク因子を排除するマネジメントがしっかりしていた。「元から断つ」という管理手法もあるのだと感じた。(経理部)



一人ひとりが生き生きと働くことができる職場づくりと、ワークライフバランスの充実に向けた取組みを行っています。

1 「個の尊重」を主題とした人権啓発の推進

働きやすい職場環境づくりをめざし、人権ポスターの掲示や人権に関するDVD視聴、また、「職場環境・人権に関するアンケート」を実施し、人権啓発を推進しています。

2 こころとからだの充実と健康管理

従業員の健康増進に向けた取組みとして、こころの健康管理を目的に、「ストレスチェック」を実施し、からだの健康増進については「ウォーキングイベント」を実施しています。

3 人材育成プログラムの充実

次代を担う若手社員の早期育成をさらに充実させ、かつ、従業員全体の専門能力を高めるために、OJT、OFF-JT、自己啓発支援を有機的に組み合わせた教育プログラムを実施しています。また、激変する事業環境に対応しうる多能的な人材育成を目的に、部門やグループを越えた横断的な研修や業務勉強会を実施しています。



▲新入社員研修



▲若手・中堅社員を対象とした集合研修



▲営業部門業務研修

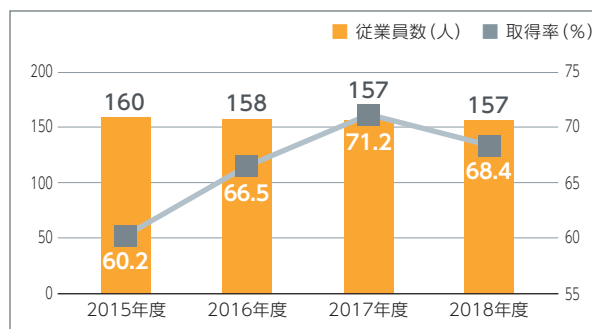


4 ワークライフバランスの充実に向けて

仕事と生活の両立支援として、子育てや介護をしながら、誰もが仕事と生活の調和がとれた働き方ができるよう、制度ならびに職場環境の整備に努めています。出産・育児を行いながら働く従業員への理解と支援を行い、ワークライフバランスの充実に向けた取組みを着実に進めています。

働きやすい職場環境の実現として、労働時間の管理や有給休暇取得促進等、良好な人間関係の実現を進めました。一人あたりの平均有給休暇取得率は継続的に60%超を実現しています。

有給休暇取得率の推移



育児休職・短時間勤務制度利用者の声

■ 関東支店 坂本 かおり

2017年から二回目の育休を取得しました。育休中は子どもたちのことに集中ができ、笑顔いっぱいの幸せな時間を過ごせました。また、PTA・自治会など、会社とは違った組織の活動に役員として参加する機会があり、貴重な経験となりました。今年4月に復職してからは育児短時間勤務制度を利用し、上司や同僚、家族に支えられながら仕事と家庭の両立を図っています。時間の制約はありますが、可能な限り新しい仕事にチャレンジさせてくれる「イクボス」のおかげで、仕事のやりがいも感じる事ができています。

働くママの一日

- 5:30 起床・家事
- 6:30 子どもたち起床・朝食
- 7:45 子どもたちを送り出した後、出勤
- 9:00 始業
- 時短で勤務
- 16:30 退社
- 18:00 保育園へ迎えに行き帰宅
- 19:00 夕食
- 20:00 長女の宿題チェック
- 20:30 子どもたちと入浴
- 21:30 寝かしつけた後、家事
- 23:30 就寝



社会とともに生きる企業グループとして、
日本石油輸送らしさを生かした社会貢献活動を進めています。

～JOTグループの事業と関係が深く、
主体性を発揮できる活動をめざして～

- 1 JOTグループらしさを生かすことができる社会貢献の実施
- 2 従業員が主体性を持って参加できる社会貢献の実施
- 3 社会の一員として、地域に根ざした社会貢献の実施

1 障がいを持つ方への支援活動

輸送事業に携わる企業グループとして、視覚に障がいを持つ方が、安全に歩けるようにとの願いをこめて、盲導犬の育成・訓練・歩行指導を行っている「公益財団法人アイメイト協会」と「公益財団法人日本盲導犬協会」への支援を継続して行っています。

2018年度は、「公益財団法人アイメイト協会」ご協力のもと、本社事務所にて盲導犬体験学習会を実施しました。協会職員の方から盲導犬についての概要を学び、アイマスクを着用して盲導犬との歩行等を実際に体験することで、視覚に障がいを持つ方に対する理解を深めました。



「公益財団法人アイメイト協会」へ寄付金の贈呈



盲導犬体験学習会

2 次代を担う子どもたちへの育成支援

わが国の将来を担う次世代の育成のために、子どもを交通事故から守る黄色い帽子や傘等を寄贈する活動に長年にわたり継続して取り組んでいます。

2018年度も黄色い帽子や傘等を本社、各支店近隣の小学校計10校、のべ513名の子どもたちへ寄贈しました。



「札幌市立北都小学校」へ黄色い傘の贈呈

3 子どもの貧困対策への支援

子どもの相対的貧困率※は、1990年代半ばから上昇傾向となっており、子どもの7人に1人が経済的に苦しい環境で生活しています。子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、環境整備や教育の機会均等を図ることを目的に、2013年6月には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立するなど、日本社会全体でこの問題への対策が進められています。

貧困状態にある子どもへの支援や調査に基づく政策提言等、総合的に子どもの貧困対策に取り組んでいる「公益財団法人あすのば」の活動に、2016年から支援を行っています。

今後も子どもの貧困問題の解消をめざし、継続した支援を行ってまいります。

※子どもの相対的貧困率
一定基準を下回る手取り所得の家庭で育つ子どもの割合



「公益財団法人あすのば」へ寄付金の贈呈



4 環境保全活動

環境に配慮した社会貢献活動として、神奈川県が森林の豊かな恵みを次世代に引き継いでいくために取り組んでいる「かながわ水源の森林づくり」の「森林再生パートナー制度」に2011年3月から参加しています。本制度は森林を整備するための寄付だけではなく、間伐、下草刈り、枝打ち等の森林を保全する活動を従業員自らが体験することによって、森林のはたらきやその重要な役割に関する理解を深めており、2018年度も従業員によるボランティア活動を行いました。



枝打ち作業の様様

参加者の声

神奈川県南足柄市にある森林ボランティアフィールドにて枝打ち体験等、自然に親しみながら活動を行いました。

■LNG部 小野 右嗣



同僚に誘われて初めてボランティア活動に参加しました。活動場所には社名が入った看板も設置されており、初めての森にも親近感を覚えました。枝打ち体験

は指導員の方に教わりながら見様見真似でチャレンジしました。最初は荒れ放題だった枝葉も徐々に伐採され、最後にはすっきりとした景色が広がり清々しい気持ちになりました。木々の成長も実感を持って学ぶことができ、この活動を継続する必要性も感じる事ができました。

5 地域に根ざした社会貢献活動

本社や支店・事業所を中心に地域に根ざした様々な社会貢献活動を行っています。各支店、グループ各社でも事務所近隣地域の道路清掃活動等を継続して行っています。

参加者の声

品川区立三木小学校で開催された「品川区民まつり」に参加し、地域の方々と交流を深めました。

■グループ安全推進部 菊池 大樹



まつり当日は猛暑に見舞われる中、参加者がお互いに「水分補給してる？休憩してる？」と声を掛け合いながら運営をしており、地域の方の温かさを感じることができました。私は主に、焼きそばの調理や販売をしましたが、そこでも地域の方や、同じくボランティアで参加している学生の方とも楽しく交流することができました。機会があればまた参加し、地域に貢献したいと思います。

まつり当日は猛暑に見舞われる中、参加者がお互いに「水分補給してる？休憩してる？」と声を掛け合いながら運営をしており、地域の方の温かさを感じることができました。私は主に、焼きそばの調理や販売をしましたが、そこでも地域の方や、同じくボランティアで参加している学生の方とも楽しく交流することができました。機会があればまた参加し、地域に貢献したいと思います。

参加者の声

清田通りグリーンベルト清掃を行い、地域環境の美化に努めました。

■北海道支店 市川 俊樹



北海道支店前の清田通りのグリーンベルトの清掃を行いました。毎日利用している道路ですが、これまでゴミを意識したことはありませんでした。しかし、いざ清掃を行うと想像以上にゴミが落ちており、驚きました。今後も継続的に実施し、地域環境の美化に努めたいと思います。

北海道支店前の清田通りのグリーンベルトの清掃を行いました。毎日利用している道路ですが、これまでゴミを意識したことはありませんでした。しかし、いざ清掃を行うと想像以上にゴミが落ちており、驚きました。今後も継続的に実施し、地域環境の美化に努めたいと思います。

6 収集ボランティア

従業員に気軽に参加してもらおう活動として、社会福祉団体等の取組みへ協力し、収集ボランティア活動を継続して行っています。

2018年度実績	
使用済み切手	708gを寄贈し、その売却益が品川区内の老人用杖の購入に充てられました。
ベルマーク	1,440点を寄贈し、支援が必要な学校の備品購入に充てられました。

透明かつ公正な経営判断を行う経営システムの構築と コンプライアンスの推進に努めます。

1 コーポレートガバナンスの強化

(1) コーポレートガバナンスに関する基本方針

グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向け、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営の最重要課題の一つに位置づけています。

その実現に向け、2018年11月に「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定し、この方針に則し、透明かつ公正な経営判断を行う経営システムの構築の実現に向けた体制の整備に向け取り組んでいます。

■「コーポレートガバナンスに関する基本方針」については、日本石油輸送ホームページをご参照ください。
<https://www.jot.co.jp/>
 IR情報⇒経営方針⇒コーポレートガバナンス

(2) コーポレートガバナンス体制

企業統治体制としては、取締役会が経営の監督機能を十分に果たし、独任制の監査役が適切な監査機能を発揮できるよう、会社法上の監査役会設置会社を採用しています。

また、取締役会の決議に基づき業務を執行する機関として執行役員を置き、業務執行の迅速化と職務責任の明確化を図っています。

取締役会では、関係する経営幹部で構成する重要案件検討会による事前討議により議案の論点を整理したうえで、法令、定款および取締役会規則(付議基準含む)により、会社経営における重要な業務執行の決定を行っています。

また、この意思決定においては、企業経営などにおいて豊富な経験・実績のある社外取締役(男性1名、女性1名)に加え、他企業で経営に携わる取締役(当社の業務は執行しない)から客観的かつ専門的な意見・助言を得るなど、より適切な意思決定ができるよう努めています。

■ガバナンス体制の概要

取締役会議長	取締役会長
取締役人数(うち女性の人数)	11名(1名)
取締役の任期	1年
社外取締役人数(うち独立役員人数)	2名(2名)
監査役人数	4名
社外監査役人数(うち独立役員人数)	2名(1名)
執行役員人数(取締役兼務者を含む)	9名

(3) 取締役会の実効性評価

「コーポレートガバナンスに関する基本方針」により、取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施しています。

評価・分析の方法は、外部機関の助言を得ながら、全ての取締役・監査役を対象にアンケートを実施し、外部機関に直接回答することで匿名性を確保しています。また、その集計結果を踏まえ、取締役会において分析・議論・評価を行っています。

2018年度に実施した結果の概要は、以下のとおりです。

- ① アンケートの回答からは、取締役会の構成、取締役会の運営等、おおむね肯定的な評価が得られており、取締役会全体の実効性については確保されていると認識しています。
- ② 一方で、「経営計画の進捗状況のフォローアップ」や「株主(投資家)との対話状況のフィードバック」等の項目で課題が抽出されました。
- ③ 取締役会では本実効性評価を踏まえ、課題に関し十分な検討を行ったうえで対応し、議論を活性化させ、取締役会の機能を高める取組みを継続的に進めてまいります。



2 コンプライアンスの推進

CSR経営を推進していくうえで重要なことは、法令やルールはもとより、広く社会規範も含め遵守することです。JOTグループでは全役職員が、経営理念に基づき、事業活動全般において求められる法令・ルールを十分に理解し、さらに一個人・一市民として社会規範を尊重し、良識と責任を持って行動できるよう取り組んでいます。

(1) リスクマネジメントに対する取組み

事業運営に重大な危機が発生した際のリスクの顕在化の予防と、被害を最小限に抑え迅速に事業を継続させることを目的に、会社が抱える多種多様なリスクを1件ごとにシートにまとめ、これを毎年度見直すことで、リスクマネジメントに継続的に取り組んでいます。

(2) コンプライアンス教育

コンプライアンスの徹底を図っていくためには、全役職員一人ひとりの知識や意識を高めていく必要があります。そのため各種研修時において、各層の実態に即した教育や外部講師を招いた講演会を実施している他、社内報やメールマガジンを用いてコンプライアンスに関連する情報の提供に努めています。

また、自分自身の行動の振り返りと、正しい行動に向けた再自覚を促すことに加え、経営理念や社内ルールおよび業務に関連する法令の理解度を深めるため、セルフチェック方式による「コンプライアンスチェック」を実施しています。



新入社員へのコンプライアンス講話

(3) 反社会的勢力への対応

近年、企業に対する反社会的勢力の不当要求行為等は、巧妙化、非公然化を強めていますが、これらの行為に屈することは反社会的勢力を利するだけでなく、暴力団排除条例への違反等、企業の信用失墜にもつながります。

この点の対応として、最近の暴力団情勢等の周知や、反社会的勢力の企業への接触手口、その対策等をまとめた映像を上映する研修会を実施し、全役職員に対し、注意喚起を図っています。

また、警視庁の暴力団排除関連団体に加入するなど、常に最新情報の収集に努めています。



不当要求対応DVDの上映会

(4) 内部通報(ヘルプライン)の運用

JOTグループ各社では、事業活動に伴うリスクや不正行為の早期発見と解決および未然防止の観点から「内部通報制度」を設け、社内報やイントラネット等により、周知を図っています。

本制度では、通報者のプライバシーへの配慮や通報者に対する不利益な取り扱いを固く禁止している他、通報窓口も社内通報窓口に加え、社外通報窓口(弁護士事務所)を設置しており、より安心して通報できる環境を整備しています。

会社概要

トップメッセージ

CSR推進体制
日本石油輸送

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
従業員とのかかわり

Social
地域社会とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

JOT

日本石油輸送株式会社

日本石油輸送株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番1号
(ゲートシティ大崎ウエストタワー16階)
TEL.03-5496-7671 FAX.03-5496-7856
<https://www.jot.co.jp/>



この冊子は、適切に管理された森林から生まれたFSC®認証紙、植物油インキおよび有害な廃液の出ない水なし印刷で印刷しています。